

活動報告書

報告者氏名: 佐野 将大

所属: 香川県立高松養護学校

記録日: 2015年 2月 20日

【対象児の情報】

	A児	B児
○学年	小学部6年生男子	中学部2年生男子
○障害名	知的障害と脳性まひ 視覚障害（眼鏡装用）	知的障害と脳性まひ 自閉症の傾向がある
○障害と 困難の内容	発語は「あ、ぱ、だ」など 簡単な言葉を理解 嫌なときには、無言・泣くなど	発語は喃語 簡単なカードを渡すことが可能 嫌なときには泣くなど

【活動目的】

・当初のねらい

飲み物を教材とした学習単元を計画し、保護者と連携しながら進めることで、
「意思の確認方法の精選と、『飲む・飲まない』を伝える力の育成」をねらった。

・実施期間

平成26年5月～12月

・実施者

佐野将大、小学部6年生担任、保護者

・実施者と対象児の関係

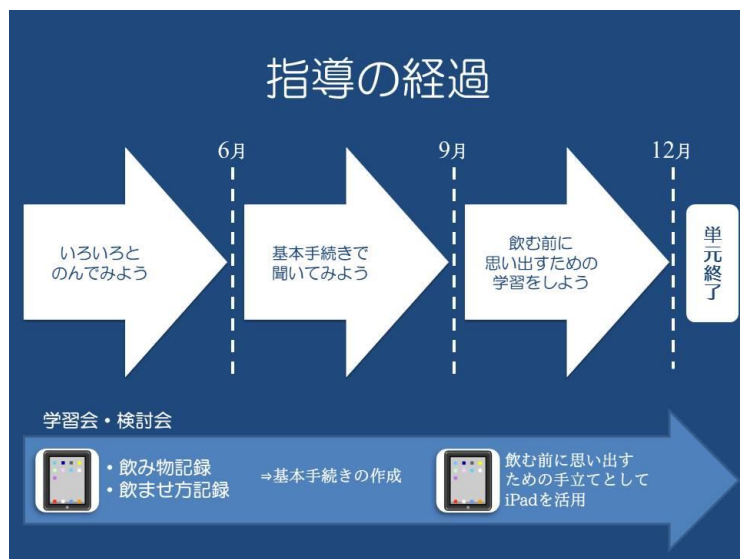
学級担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

	A児	B児
○事前の状況	言葉で聞いて活動を選ぶと、その後泣いたり嫌がったりすることがある。	カードで聞いて活動を選ぶと、その後泣いたり嫌がったりすることがある。
つまり、A児・B児ともに選びきることができていない状況なのでは？と考えた。		

・活動の具体的内容



一年間の指導経過

学習の流れ

- ・いろいろと飲んでみよう
- ・基本手続きで聞いてみよう
- ・飲む前に思い出す学習をしよう

学習会・検討会

- ・飲み物、飲ませ方の記録と検討
- ・飲む前に思い出す学習法の検討

①ビデオをみて振り返る 「飲み物の好き・嫌い」を確認するためには？

飲むペースで、好き／嫌いがわかるの？ のどが乾いているだけかもしれない？
 時間帯によっても飲みたいものが変わる？ 疲れとかも関係する？
 飲んだことあるの？ パッケージを見せて分かっているの？ 言葉は適切？
 経験不足で嫌がっているのでは？ 一度は飲んでもらわないと・・・
 好き・嫌いまで育っているの？ 味覚は感じられているのかな？
 飲み物の温度の違いはどう聞く？ 意思を聞く場面とそうでない場面をどう伝える？
 見せ方は？ 聞く順番や飲み合わせは？ 手を伸ばすのって信頼して良い？ など

もしかして、好き嫌いを聞き取ろうとするのではなく、
 今、飲むか飲まないかを聞き取ることが大切なのでは？



飲むか飲まないかを聞き取るための基本手続き

- ・目の前で透明のコップに注ぎ、一口飲ませる。
- ・そのまま二口目を、見えて匂いが分かる場所で提示して、待つ

・対象児の変化

A児	B児
----	----

取り組み始めてすぐ

試しに、色々な飲み物を飲んでみた。

・拒否と要求をはっきり示すと思っていたが、実際飲んでいる様子を観察してみるとよく分からなかった。
 ・「口から出す飲み物なのに、聞かれると何度も飲んでしまう事件」が起こる。



繰り返し飲んで
 しまう事件

・牛乳が好きだと思われていたが、実際に色々なものを飲んでみると、「家で牛乳を選ばなくなってしまった事件」が起こる。



牛乳飲みたく
 ない事件

今までの方法では、意思を確認できていなかったのでは？という疑問が生じた。

経験不足という背景にもアプローチすることが必要であると感じた。

夏ごろ

飲むか飲まないかを聞き取るための基本手続き^[※]で、継続して取り組んだ。

・大人の手を引き寄せたり押し返したりする動きが出始めた

・嫌なときには大人の手を押し返すという動きが出た

・基本手続きで、飲む飲まないの確認ができそうだと感じた。

・拒否のサインを育てることができそうだと感じた。

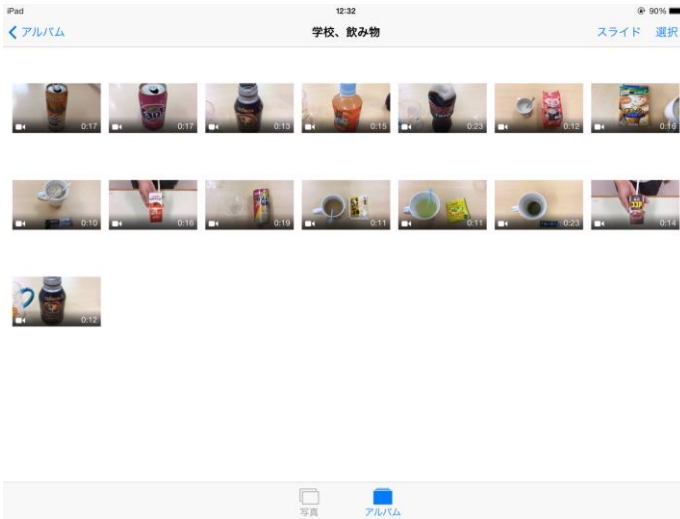
秋ごろ

飲むか飲まないかを聞き取るための基本手続き^{【※】}に、実態に応じてやりとりを加えた。

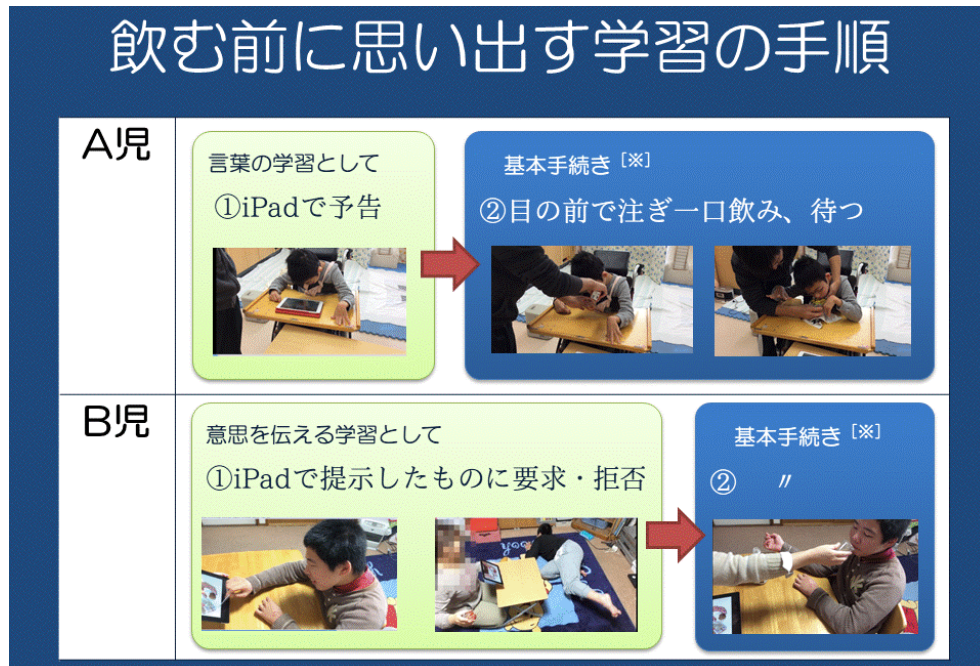
何の飲み物を飲むか？ということ想起しやすくなることを狙って、学習記録^{【*】}で撮影していた映像（飲み物の名前を教師が言ったあと、蓋を開けて、コップに注ぐ様子を撮影した動画）を、飲む前に見る学習に取り組んだ。

外出先などで飲み物を購入前に選ぶことを狙って、学習記録^{【*】}で撮影していた映像（飲み物の名前を教師が言ったあと、蓋を開けて、コップに注ぐ様子を撮影した動画）に対して、要求と拒否を伝える学習に家庭で取り組んだ。

準備した動画



学習の手順



よく動画を見て、動画が終わると声を出している。飲むことを楽しみにしているような姿が見られる。準備した飲み物は全て飲む。今は、いろいろと飲むことが楽しい時期なのかもしれない。

家庭でも、サインがしっかりと出るようになりつつある。外食でも使えるかもしれない。カフェオレが好きで、トマトジュースが嫌いなのだと思う。その度聞く必要がある。

【報告者の気づき】

保護者の感想

A 児保護者	B 児保護者
<ul style="list-style-type: none">・今まで飲み物を、味見すらさせていない、選択をさせていない、ということに気がついた。・聞く前に、「きつとこっちの飲み物が好きなんだ」と思い込んだ状態で聞かない努力をすることが大切だと思うようになった。・もしかしたら、複数飲み物がある事自体を楽しみにするようになったのかもしれない。最近、あっちも飲みたい、という表現をしているような気がする。	<ul style="list-style-type: none">・牛乳が好きだと思っていたけど、意外といろいろと飲むなあという感想に変わった。そうすることを続けると、何が好きなのか嫌いなのか、全く分からなくなって、そうしていると、それが普通なのではないかと思うようになった。・小さい時の拒否した印象が強く残っていることに気がついた。・今飲みたいか飲みたくないかを聞くことができれば、それでいいのだと思えるようになった。

実施者の感想

- ・支援者が気にすべきことは、子どもが何が好きか嫌いかを把握しておくことではなく、好きか嫌いかを聞くための方法、つまり“聞き取りが適切かどうか”ということだけを見直していく作業で良いのではないか？
- ・子どもの力に応じて、子ども本人が「好き／嫌い」にたどり着くのではないか？
- ・そのたどり着く様子を観察するのが支援者の役割ではないか？
- ・選択肢に対して、曖昧に答えている可能性がある子どもの『選びきる力』を高めていくためには、嫌いな飲み物、という選択肢には可能性を感じた。曖昧に答えてはいけない必然性のある場面作りが容易であった。

この実践と iPad

- ・学習記録として、またやりとりを振り返るための簡易なアセスメントツールとしての活用が有効であった。
- ・A 児、B 児のような児童にとっては、「言葉の学習」「意志の伝達の学習」の際の教材になり得る。

いろいろな子どもが勉強するとしたら

- ・学習記録と、やりとりを振り返るツールとしては活用可能だと考える。
- ・iPad を教材として飲み物の学習に位置づけるのには課題がある。早急に活用してはいけない。

飲み物という単元の可能性

- ・これまで自立活動の時間に位置づけられた、重度重複障害児のコミュニケーションの項目は、一人一人の実態に合わせた内容と教材を用いて行われてきている。それに加える形で、「飲み物」のような単元を導入していくことには以下の様な意義があると感じられた。

- ① 多くの子どもに共通のノウハウで教えていくことができ、さらに指導方法を共有できる可能性。
- ② コミュニケーションの指導のうち、「選択」「意思の伝達」という指導方法の可視化、明確化。
- ③ 学校が卒業までに身に付ける力として扱うことができる可能性。

「意思を伝える力」、「選択する力」を身に付けたあと、その力を活用する場所も「飲み物」の場合は明確である。重度重複障害児教育の教育課程にこのような単元が適切に位置付くことができれば、意思を表現する力・選択する力を効果的に高められるのではないだろうか。その上で、iPad は、家庭や専門機関との学習成果の共有のためのツールになるのではないかと感じている。